はちのす

木戸小学校学校だより
令和５年１０月６日
№２７５
在籍児童数３９５名
令和５年１０月６日現在

今日は「節目の式」です

校　長　　貝沼　浩晃

本日は前期最終日です。前期の終業式と後期の始業式を一緒にして「節目の式」として開催することとしました。

竹は、冬に雪がたくさん降っても，曲がりながら受け止め，ある程度積もると雪を跳ね返します。折れることはまれで，強くてしなやかです。それは，竹に節があることに，その強さの秘密があるそうです。

人の営みも同じです。節目に当たってよくできたことを認め，できなかったことを課題として次に生かす。その繰り返しです。節目を生かして，大きく変わる人もいます。大きくジャンプアップする人もいます。この貴重な日を生かしたいですね。

６年修学旅行　野口英世記念館見学

夏休みに入る前，夏休み明けも，節目の日でした。朝会で児童に話をしました。そして，今日は前期と後期の境目であり，学校の１年では大きな節目になります。教室では担任と児童がこの半年を振り返りました。ぜひ，ご家庭でも振り返っていただき，良いところは大いに褒め，残った課題は次に生かしましょう。

節目の式では、「ど力のつぼ」の話をしました。勇気がもらえる，すてきなお話です。今，子どもの努力があふれていなくても，もしかすると，あと１滴であふれる一歩手前なのかもしれません。明日あふれるかもしれません。そのために励まし続けましょう！

６年修学旅行　慶山焼に挑戦

＜節目の式での話＞　「ど力のつぼ」１年　角野愛さん　一部抜粋

（途中から）人がなにかをはじめようとか、いままでできなかったことをやろうと思ったとき、かみさまから「ど力のつぼ」をもらいます。そのつぼには、いろいろな大きさがあって、人によって、ときには大きいのやら、小さいのやらいろいろあります。そして，そのつぼは、その人には見えないのです。でも、その人がつぼの中に、いっしょうけんめい「ど力」を入れていくと、それがすこしずつたまって、いつか「ど力」があふれるとき、つぼの大きさがわかる、というのです。だからやすまずにつぼの中にど力を入れていけば、いつか、かならずできるときがくるのです。（以下略）

出典：朝日作文コンクール「子どもを変えた親の一言」作文 25 選 明治図書